

令和3年度 男女共同参画意識に関するアンケート結果

1. 目的

第4次石狩市男女共同参画計画の進捗状況および男女共同参画に関する市民意識を把握し、本市の男女共同参画推進事業に活用するため実施

2. 対象者の抽出方法

市内に居住する20歳以上の男女1,000人

- 1 地域別割合：旧石狩市900人、厚田区50人、浜益区50人
- 2 年代別割合：20代、30代、40代、50代、60代以降を概ね均等
- 3 男女別割合：各世代を概ね均等

3. 期間及び方法

期間：令和3年8月27日（金）～9月15日（水）

方法：対象者にアンケート書類一式を郵送、返信用封筒により回収 ※Web回答も受付

4. 回収状況

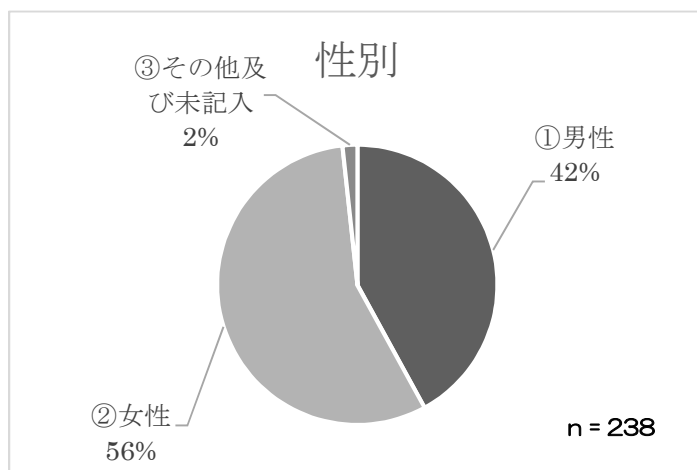
回収件数は238件で回収率は23.8%

1 性別

男性は20.0%、女性は26.8%の回収率となっています。

項目 \ 性別	① 男性	② 女性	③ その他及び未記入	合計
配布数(件)	500	500	—	1,000
回収数(件)	100	134	4	238
回収率(%)	20.0	26.8	—	23.8

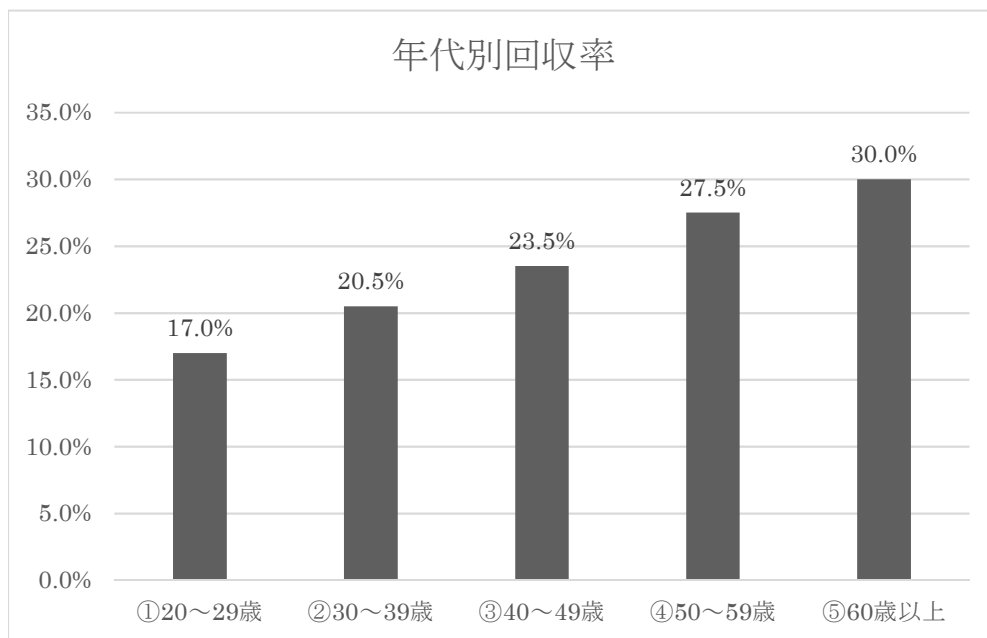
※LGBTなどの性的マイノリティの人に配慮し、性別選択は必須項目としていません



2 年齢

⑤60歳以上が30.0%と一番高く、次が④50～59歳の27.5%と年齢が高い人からの回収率が高い一方で、①20～29歳が17.0%と若年層の回収率が低くなっています。

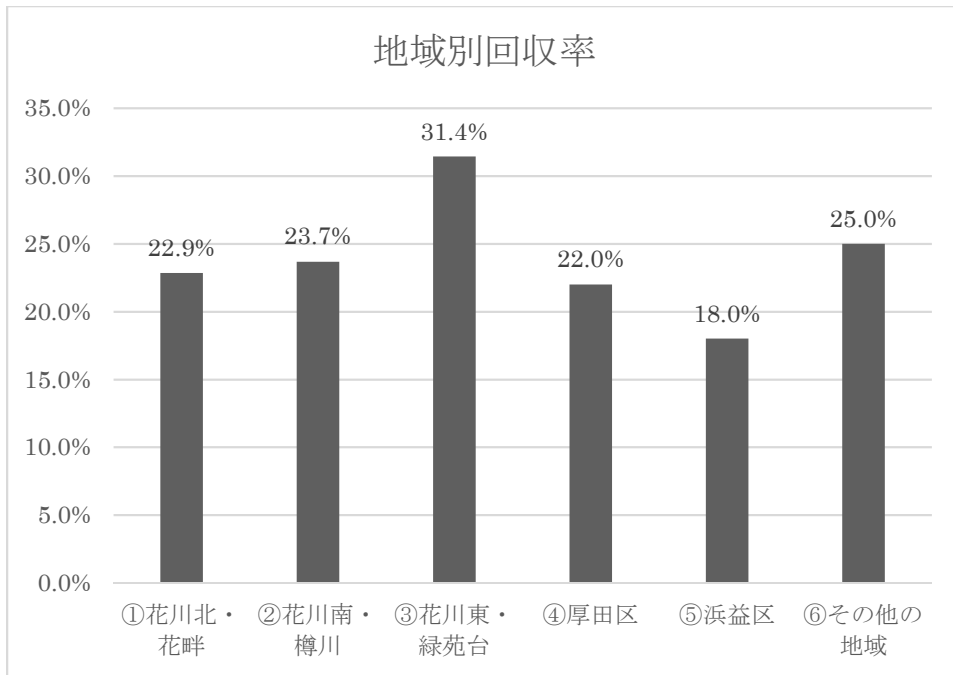
項目	年齢	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	未記入	
配布数(件)		200	200	200	200	200	—	1,000
回収数(件)	男性	13	17	17	20	33	0	100
	女性	21	24	30	33	26	0	134
	未記入	0	0	0	2	1	1	4
	合計	34	41	47	55	60	1	238
回収率(%)		17.0	20.5	23.5	27.5	30.0	—	23.8



3 お住まい

⑤の浜益区が18.0%となっているほかは、20%以上の回収率となっています。

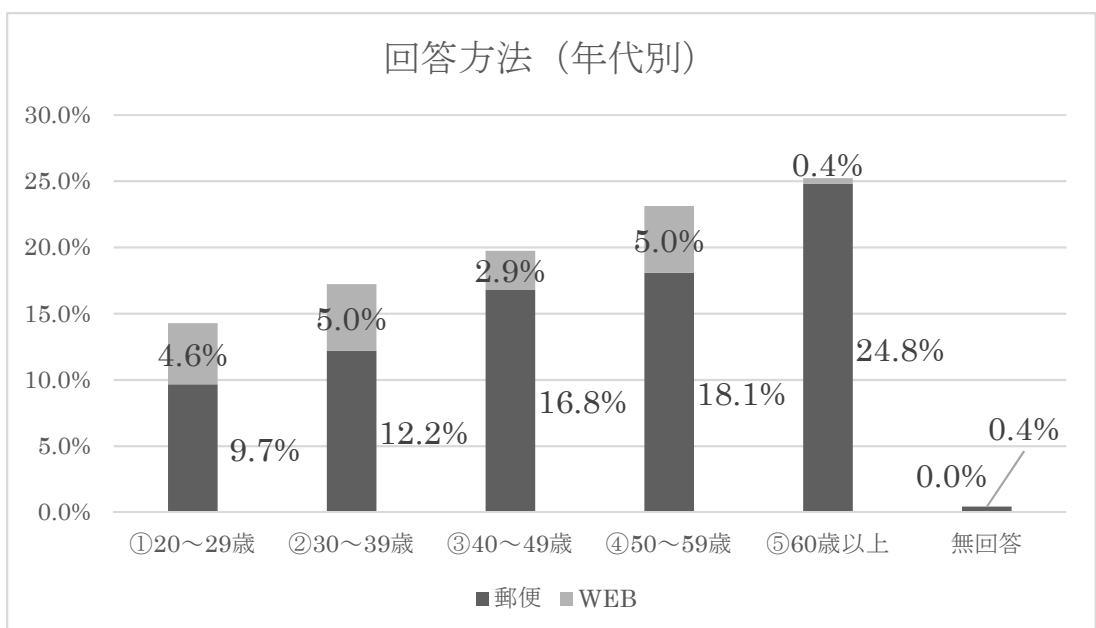
項目	地域	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
		花川北・花畔	花川南・樽川	花川東・緑苑台	厚田区	浜益区	その他の地域	未記入	
配布数(件)		280	490	70	50	50	60	—	1,000
回収数(件)		64	116	22	11	9	15	1	238
回収率(%)		22.9	23.7	31.4	22.0	18.0	25.0	—	23.8



4 回答方法

郵便で回答した人は 195 人、Web で回答した人は 43 人となっています。

年齢 項目	① 20～29 歳		② 30～39 歳		③ 40～49 歳		④ 50～59 歳		⑤ 60 歳以上		⑥ その他及び 未記入		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
郵便	23 人	9.7%	29 人	12.2%	40 人	16.8%	43 人	18.1%	59 人	24.8%	1 人	0.4%	195 人
Web	11 人	4.6%	12 人	5.0%	7 人	2.9%	12 人	5.0%	1 人	0.4%	0 人	0.0%	43 人
合計	34 人	14.3%	41 人	17.2%	47 人	19.7%	55 人	23.1%	60 人	25.2%	1 人	0.4%	238 人



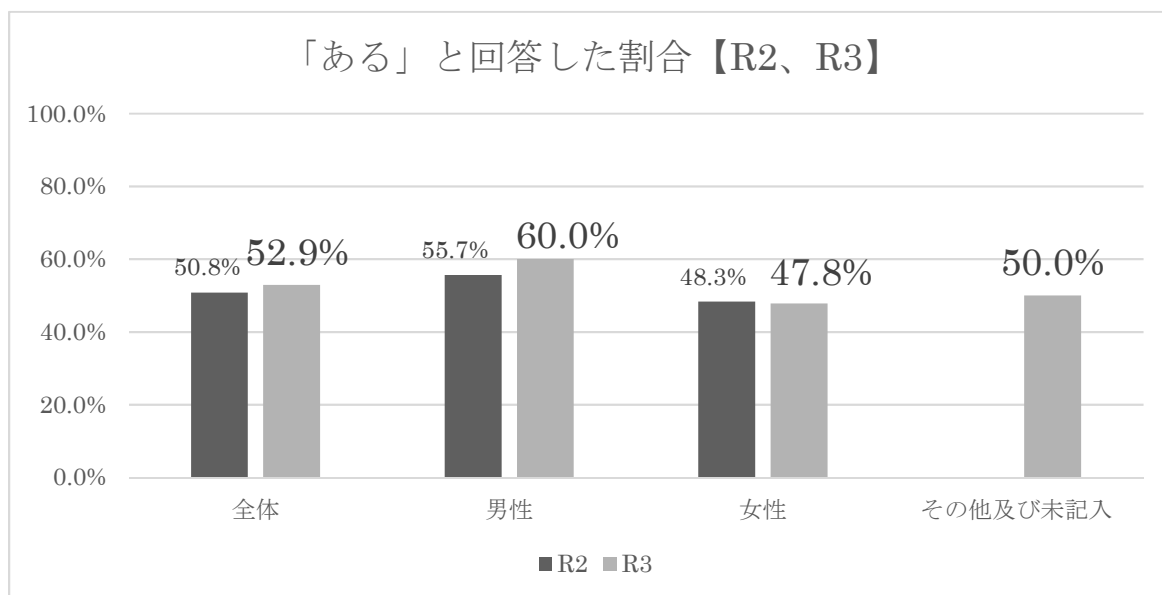
5. 分析結果

問1：あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

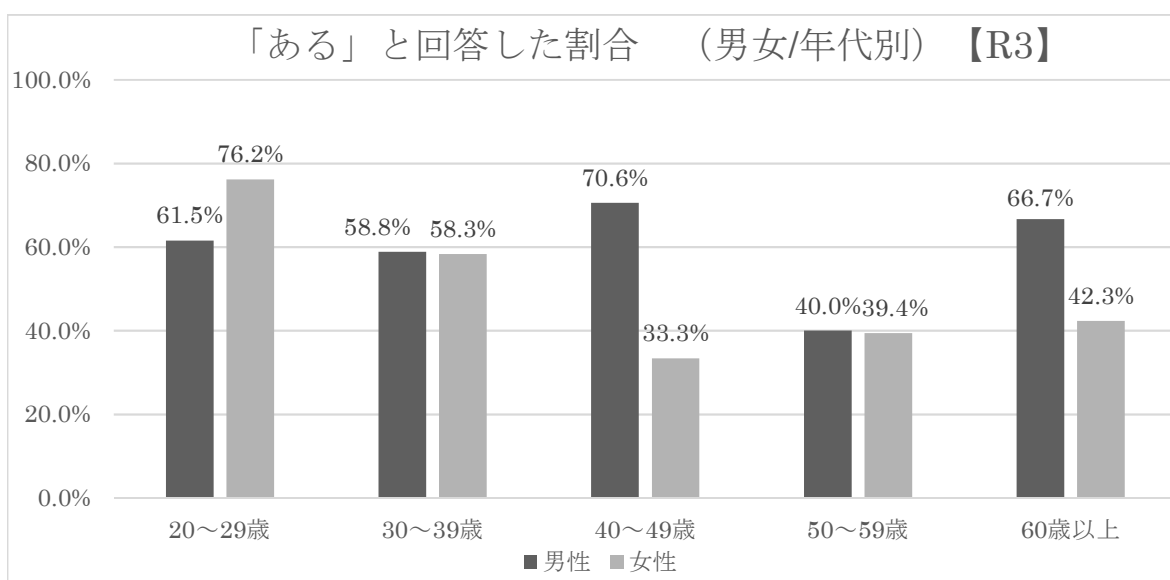
① ある ② ない

※以下 R2：n=246（男性 n=97、女性 n=147、未記入 n=2）

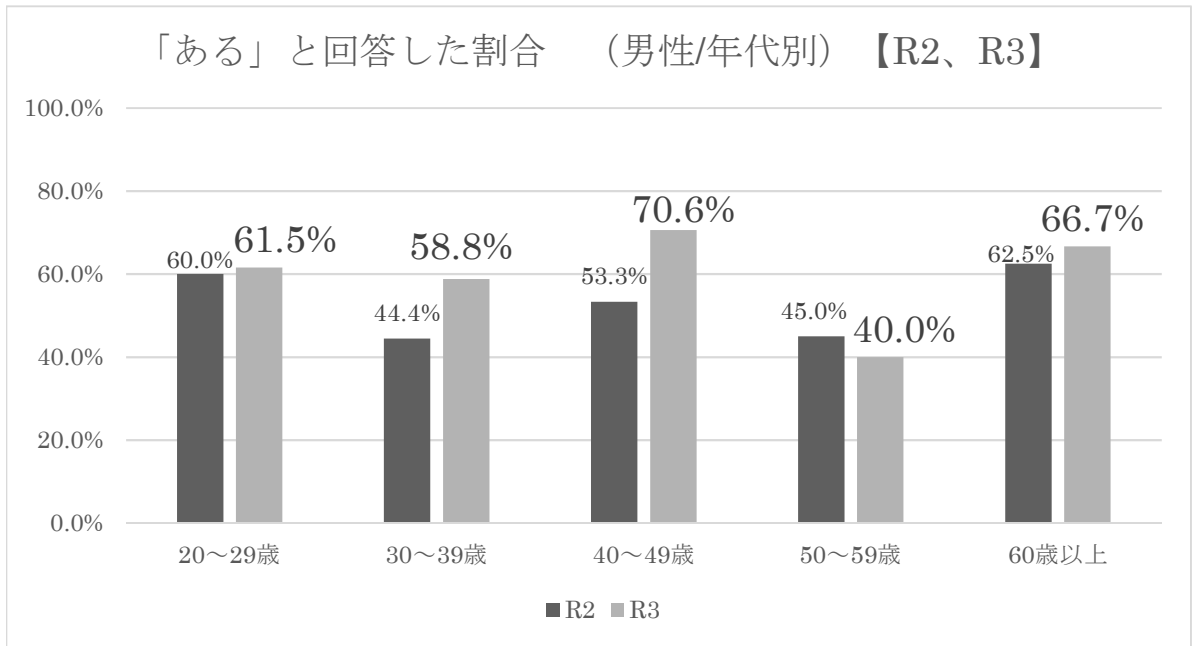
R3：n=238（男性 n=100、女性 n=134、その他及び未記入 n=4）



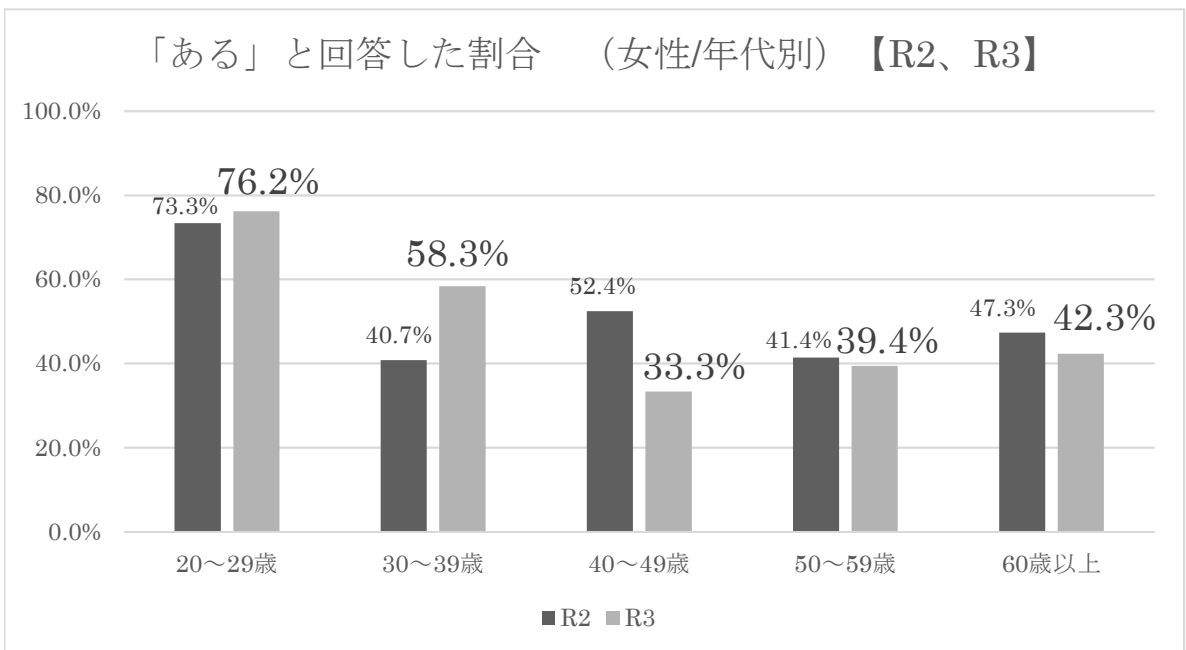
- ・約半数の人が見たり聞いたりしたことが「ある」と回答しています。また、男性の認識している割合が 60%であるのに対し、女性の認識している割合は 50%以下と開きが見受けられます。



- ・男性は 50～59 歳を除く全ての年代で 50%以上の人々が認識しています。女性は 20～29 歳が 76.2%と高い一方、40～49 歳が 33.3%、50～59 歳が 39.4%と低くなっています。また、男性女性どちらも 50～59 歳が 40%以下と低くなっています。



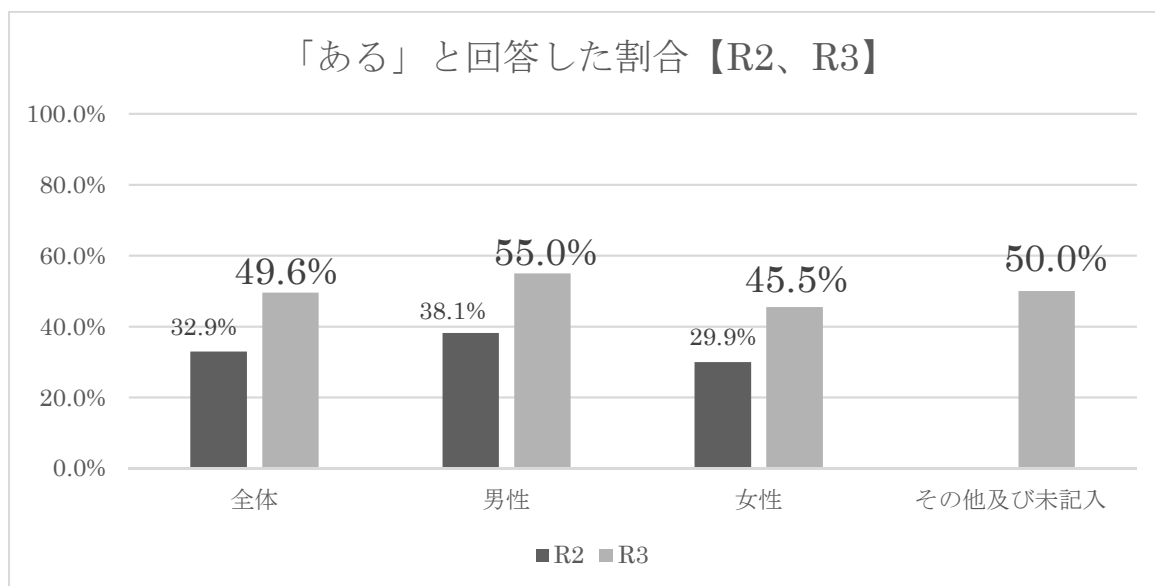
・50～59歳を除く全ての年代で前年度調査を上回っています。



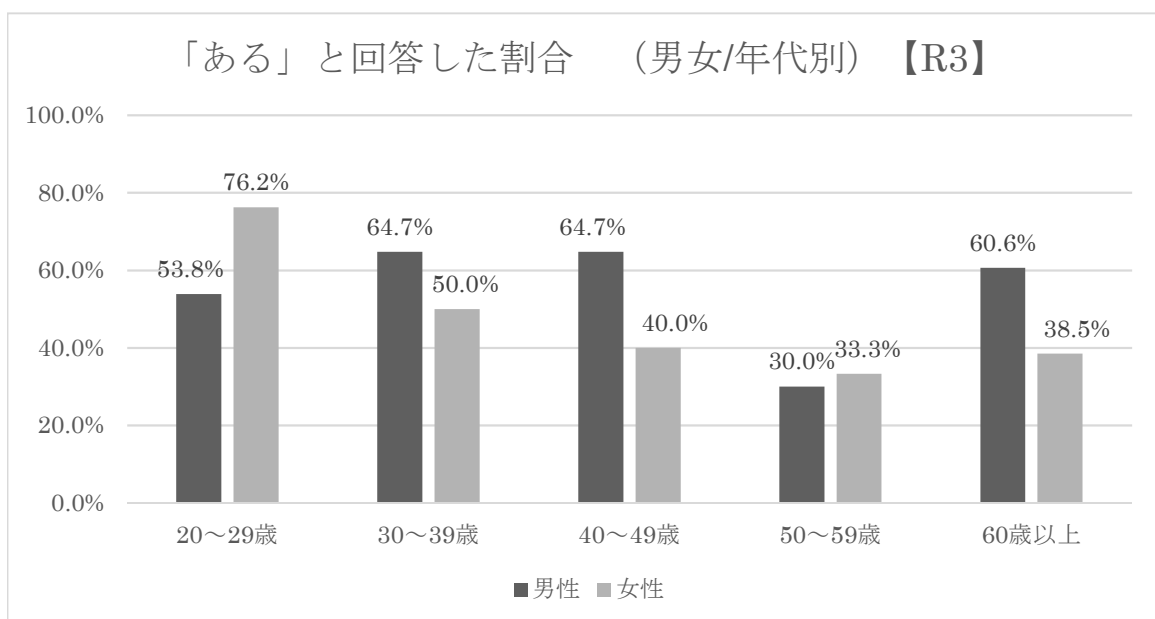
・20～29歳と30～39歳は前年度調査を上回っていますが、それ以外の年代は前年度調査を下回っています。

問 2：あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を見たり聞いたりしたことはありますか？

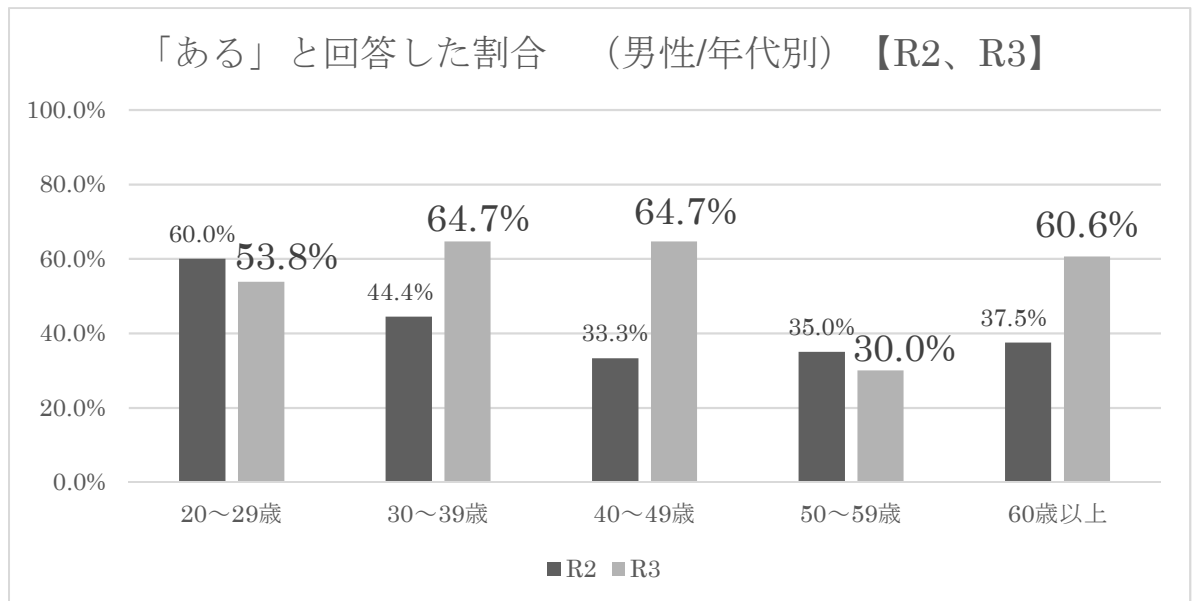
- ① ある ② ない



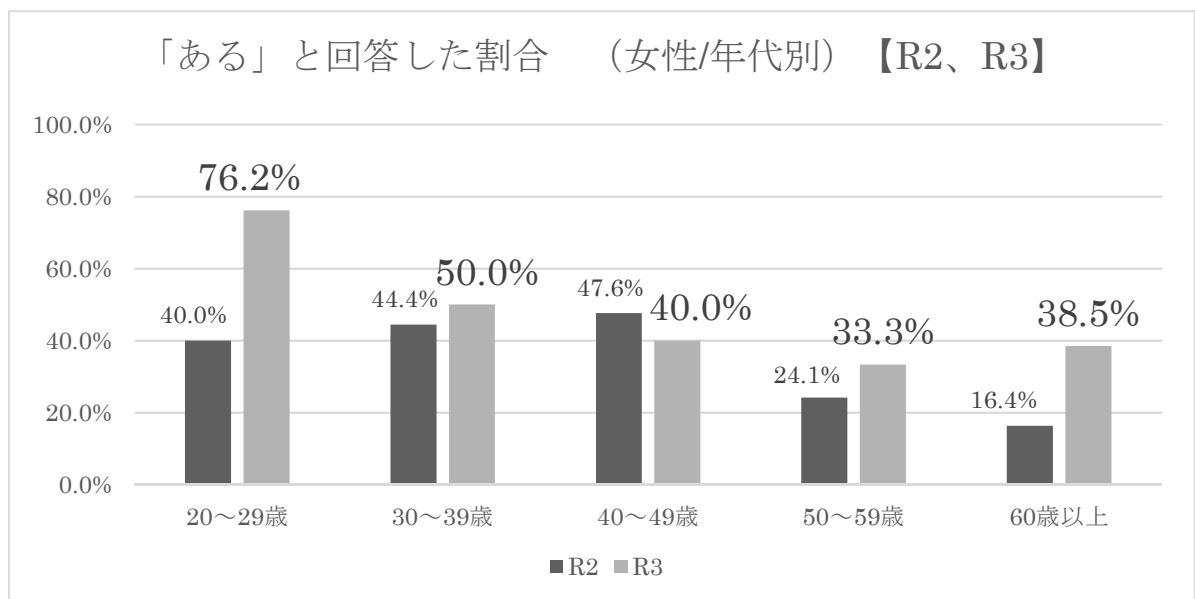
- 見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は前年度調査より高くなっており、49.6%と約半数の人が認識している結果となりました。また、男性の認識している割合は、女性の認識している割合よりも高いことが見受けられます。



- 男性は50～59歳を除く全ての年代で50%以上の方が認識しています。女性は20～29歳が76.2%と高い一方、40～49歳以降の年代は40%以下と低くなっています。また、男性女性どちらも、50～59歳が30%台と低くなっています。



- ・ほとんどの年代で前年度調査を上回り、50%以上となっていますが、20~29歳、50~59歳は前年度調査を下回り、特に50~59歳は30.0%と低くなっています。



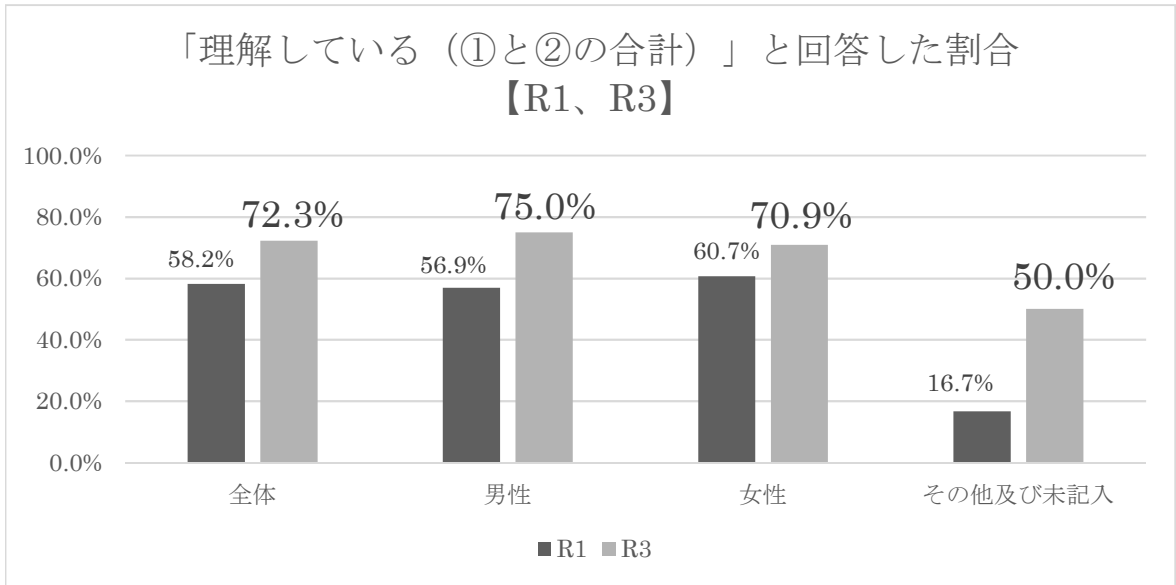
- ・40~49歳を除く全ての年代で前年度調査を上回っています。また、年代が上がるにつれ認識している割合が低くなる傾向となっています。

※問3「あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください」については13ページに記載しています。

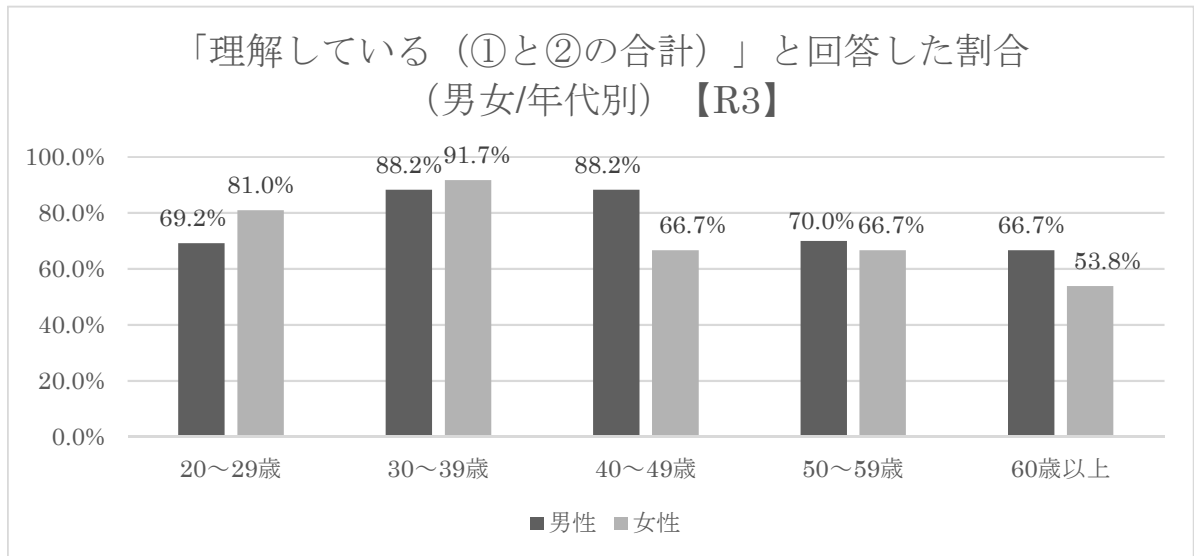
問 4：あなたは、「LGBT」という言葉の意味を知っていますか？

- ① よく理解している ② だいたい理解している
③ 聞いたことはあるが内容はよく知らない ④ 知らない

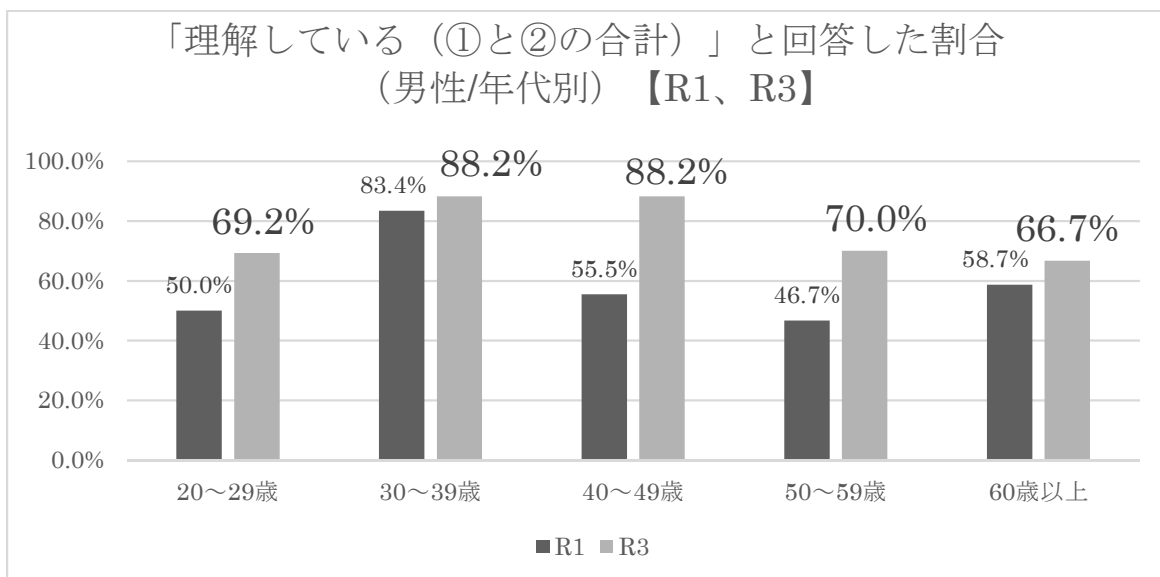
※以下 R1：n=270（男性 n=109、女性 n=155、未記入 n=6）



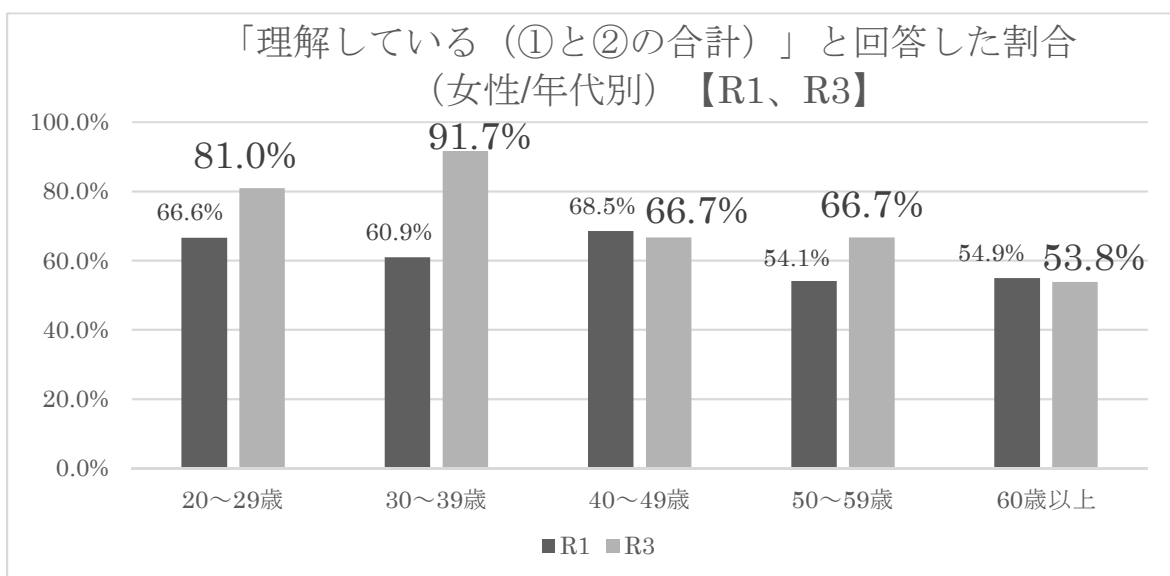
・約 70%の人が「理解している」と回答しています。また、男性の理解している割合が女性の理解している割合よりも高くなっています。



・男性女性どちらも全ての年代で 50%以上の人理解しており、特に 30～39 歳は 90%前後の人が理解しています。男性は 30～39 歳と 40～49 歳が 88.2%、女性は 30～39 歳が 91.7%と非常に高く、女性の 20～29 歳も 81.0%と高くなっています。また、年代が上がるにつれ理解している割合が低くなる傾向となっています。



- 全ての年代で前回調査を上回り、理解している割合が60%以上と高くなっています。特に40~49歳、50~59歳は前回調査を大きく上回っています。



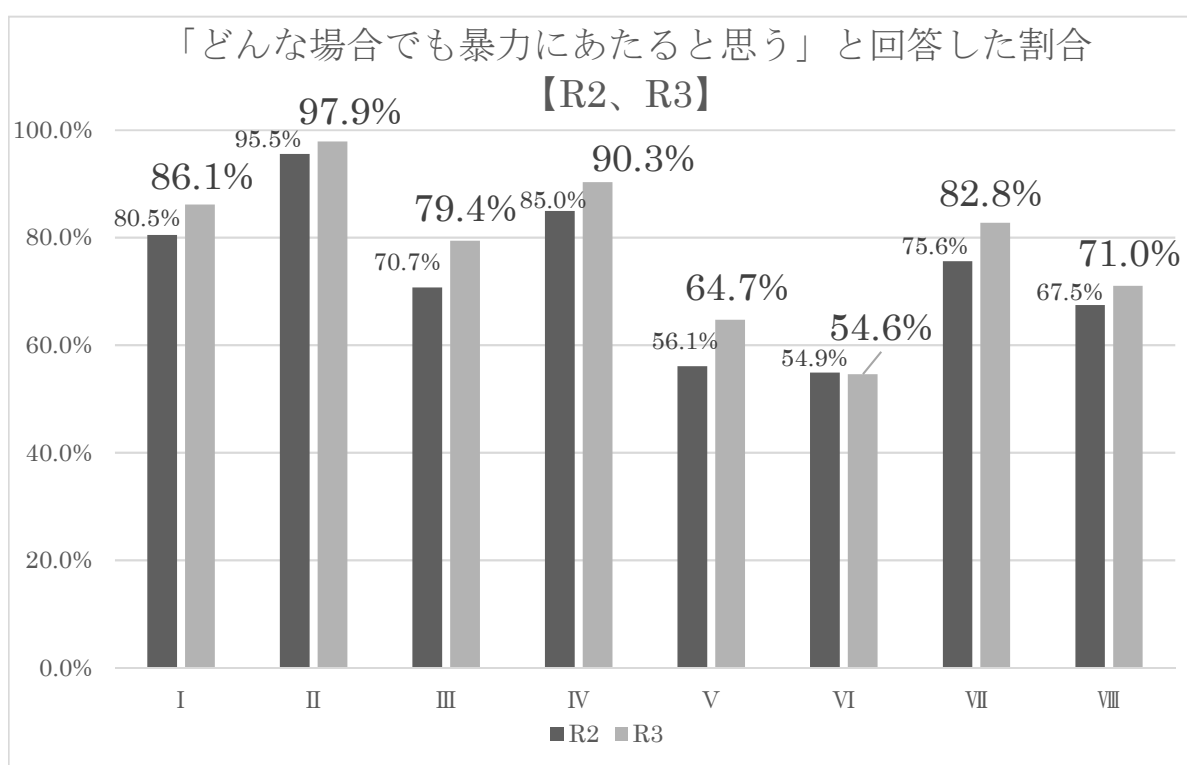
- 多くの年代で前回調査を上回り、理解している割合が50%以上となっています。特に30~39歳は前回調査を大きく上回っています。

問 5：あなたは、次のようなことが夫婦（恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思いますか？
（各項目について、あなたの考えに近い番号をいずれか 1 つ選んで○をつけてください）

※「夫婦」には婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます

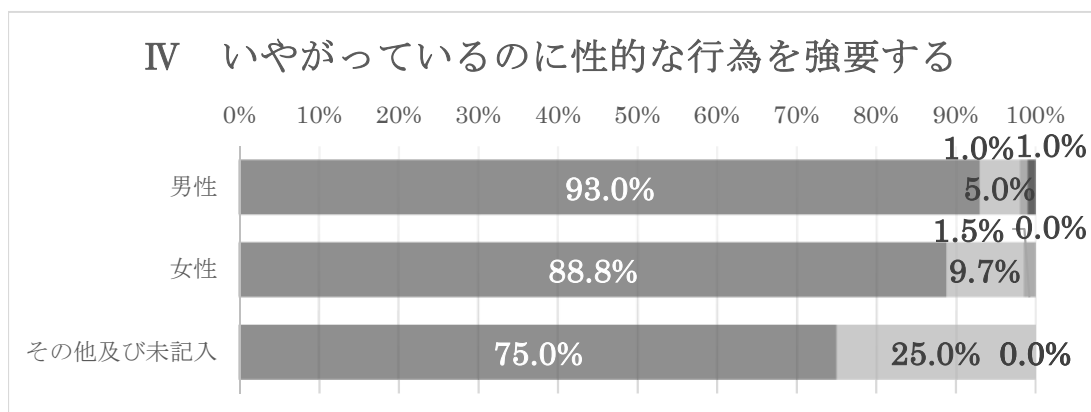
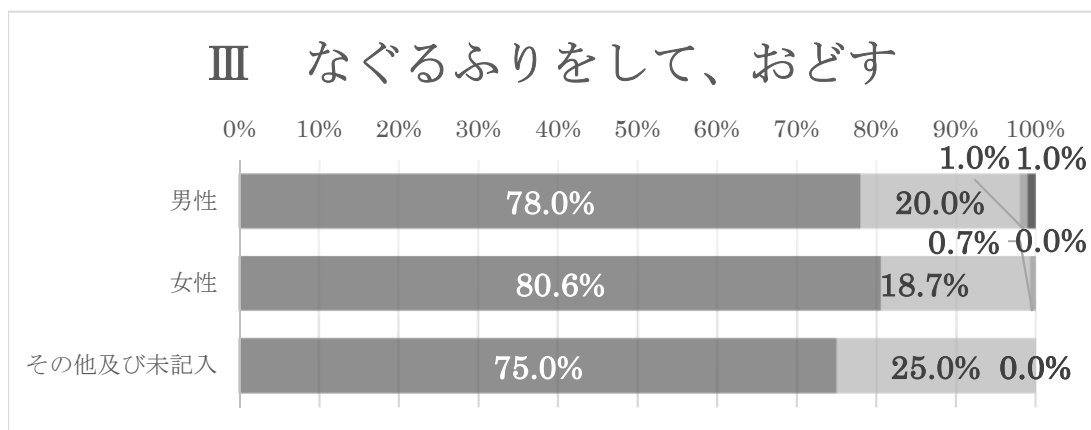
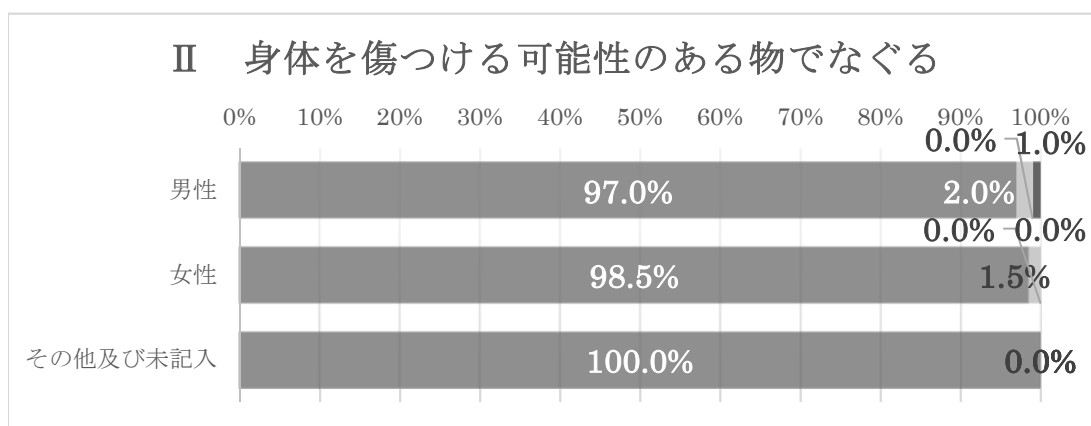
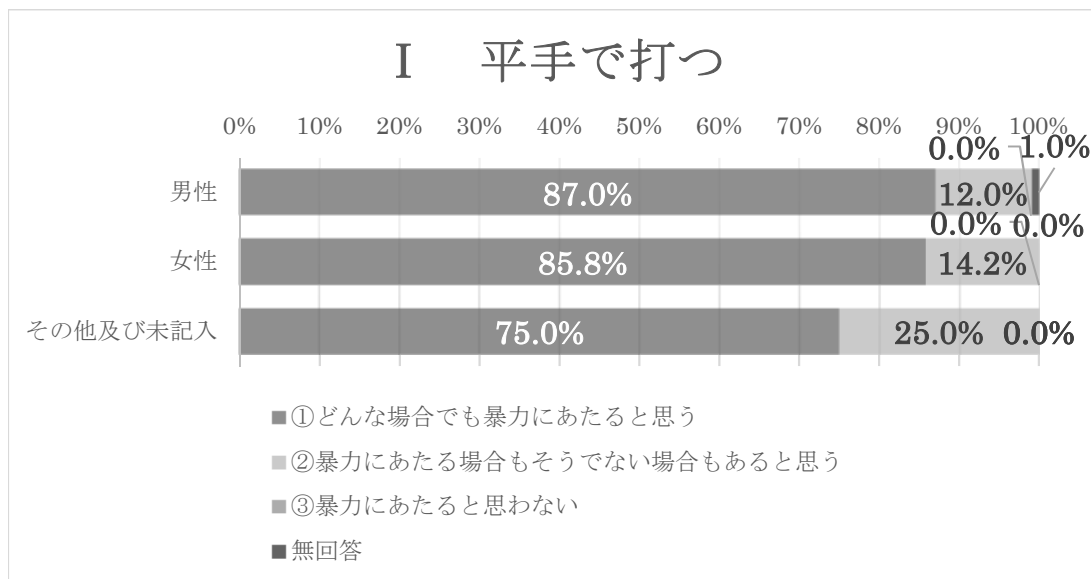
- ① どんな場合でも暴力にあたると思う
- ② 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ③ 暴力にあたるとは思わない

項 目		回 答		
I	平手で打つ	①	②	③
II	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	①	②	③
III	なぐるふりをして、おどす	①	②	③
IV	いやがっているのに性的な行為を強要する	①	②	③
V	何を言っても長期間無視し続ける	①	②	③
VI	交友関係や電話を細かく監視する	①	②	③
VII	「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く	①	②	③
VIII	大声でどなる	①	②	③

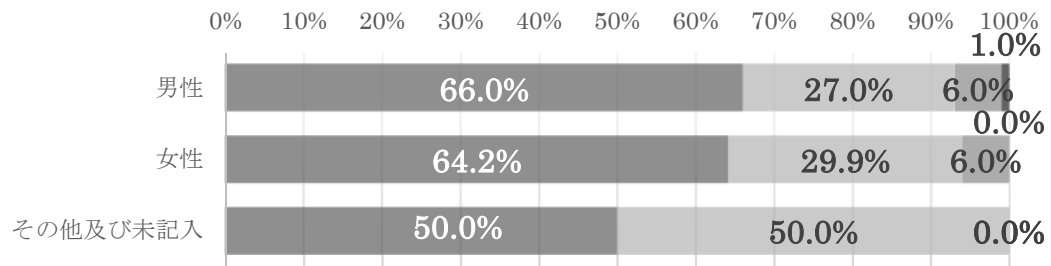


- 全ての項目で半数以上の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。前年度に引き続き今年度調査も I、II の身体的な暴力や IV の性的な暴力に比べ、III、V～VIII の精神的な暴力について認識している割合が低く、特に「V 何を言っても長期間無視し続ける」、「VI 交友関係や電話を細かく監視する」がそれぞれ 60%、50%台となっています。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合は、ほぼ全ての項目で上昇傾向にあります。

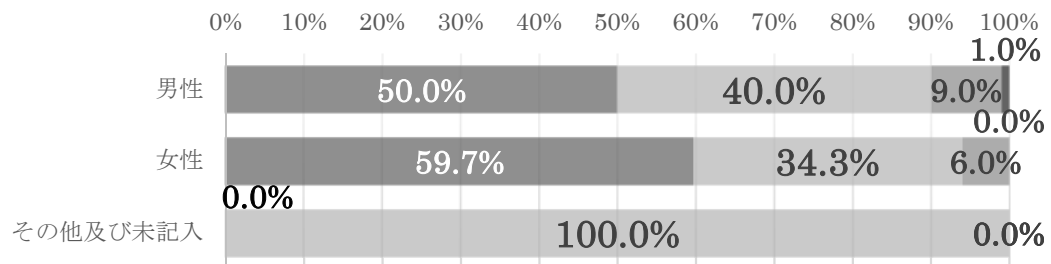
項目別



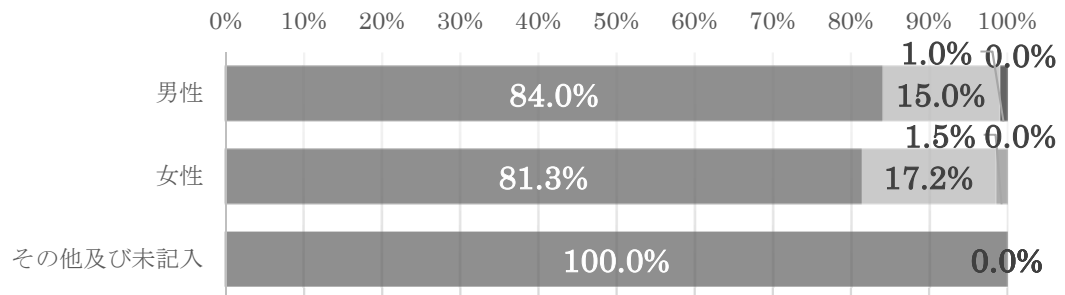
V 何を言っても長期間無視し続ける



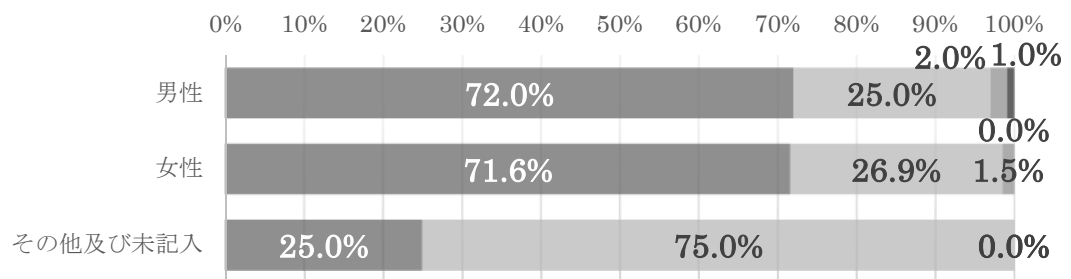
VI 交友関係や電話を細かく監視する



VII 「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く



VIII 大声でどなる



- 男女間の認識の差については、「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識する女性の割合が男性より 9.7%高い結果となっているほかは、顕著な差はありませんでした。また、「V 何を言っても長期間無視し続ける」「VI 交友関係や電話を細かく監視する」という行為は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と認識している割合が男女ともに約 30%以上と高くなっています。

問3：あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために心掛けていることや、実践したらよいと思うことがありましたらご自由にお書きください

20代女性（7件）

- 生活の質を上げる。
- 家事、育児を家族で分担して行ったり、職場の上司に体調を伝え、定期的に休みをいただくことによって心身共に安定してバランスが取れると思っています。
- 福利厚生が整った企業に就職したり、産後の復職やライフステージごとの転職を可能にするために、資格の予備校に通っている。
- 育児休暇が男性でも取得しやすい世の中になってほしいと思います。
- 現在1歳児のシングルマザーですが、弊社では事務以外の女性で出産を経験した人がおらず、今後女性職員が入社した時のために、会社でいかに対応が良くなるか自由に要望をぶつけています。子どもが熱を出して迎えに行く、予防接種を打つ等。（現場仕事をしています）
- 仕事はあくまでも生活するための手段であるという意識、仕事と生活だったら生活を優先しても良いという考えを持つこと。
- 自分の気持ちがある程度理解し、満たすことを心掛けている。

20代男性（6件）

- 上司の負担を増やすことが自分の作業削減にもつながっている。
- けじめをつけて休むときはしっかり休む。
- 定時になったらすぐに仕事を上げる。上がれるような雰囲気を作る。他の人にもさせない。
- 残業は極力せず、時間内で業務を終わらせることで自分の時間を確保する。休みの日も、たまには遠出をするなど普段と違うことする。そうすると気分転換になる。
- 計画して過ごす。
- やはり勤務時間を厳守するべきなのではないでしょうか。それができるように会社としてもできる範囲での課題というかノルマを与えたり目標を設定したりすることによってストレスフリーになり、私生活も有意義な時間が作れ、バランスが上手く保たれていくのではないかなと思いました。環境が人の心を作るように、良い環境で制限のない追われることのない仕事をこなすことで、それに向かって熱心に取り組めると思いますし、集中力が向上したりする傾向があると思うので、バランスを保つならそういった取組も大事なのかなと思いました。最近で言うと、コロナ禍で飲みに行けない方々が増えていると思います。そんな時に会社の一室を借りて少人数で愚痴などをこぼす会なども設けてみたら良いのかなと思いました。

30代女性（11件）

- とにかく夫婦でよく話し合うこと。就業、家事、育児、教育、体調管理等どちらか一方ではなく家族単位で情報共有することが大事だと思います。
- 同じように仕事をして、家の事もして、育児もというママたちのために、息抜きができる場所、子どもを預かる、協力しながらストレスを減らしていくなど、ママたちの間で交流できるような働きかけをしています。特に浜益は若者、子育て世代に対する活動、場所の提供などが少ないのでそういった面を気にかけていただきたいなと思います。ご年配の方が多いということで、そちらばかりに力が入ってしまうのもわかるのですが・・・。
- 育休を2年の予定だったが、子の成長が遅く心配だったため職場に相談し、満3歳まで延長してもらった。働き方や部署の変更も可能となるよう育休中に放送大学で免許取得も目指している。職場にはいろいろとお世話になりながら家庭を大切に生活させてもらっている。

- 正社員（1日8時間）勤務しています。1日のほとんどが会社。終われば、帰って食事の準備。夜から洗濯。寝るのは唯一の楽しみ。ドラマ見て12時。以前、経済産業省が推進する「プレミアムフライデー」は一部企業だけで行っていたが、全企業強制にすれば平日、銀行や郵便局で用事が足せる。金曜日限定に限ると会社が空になるので曜日を変えたりローテーションで半休を取れば、さほど業務に影響はなく、有休でもなく「リフレッシュ半休」みたいなので、堂々とリフレッシュ時間が作れる。ほぼ日曜祝日しか休みがなく、コロナに注意し人混みを避けて夜に食品を買い出ししている現状。平日半休になれば、空いている時間に買い物ができる。17時までのお店も行ける。
- 余暇の時間も作る。帰宅後、「食事後寝るだけ」にはせず、1時間程度は自分の時間を作る。
- 定時退勤の推奨。
- 休日は子どもと公園で遊んだりするようにしている（平日はなかなか遊ぶ時間が取れないため）。
- ライフ部分も仕事の予定通りにスケジュールの中にしっかり入れる。
- 早起きして夕食を作る。仕事から帰宅しスムーズに行えるように。
- バランスもなにも必死で働かないと生活できない。国、行政の政策は公務員の最低基準に合わせていて、現実社会の最低ラインを無視しているように思う。まずは、実際の生活者にもっと目を向けてほしいと思う。
- 夫に仕事上の愚痴を言う。調理をしない日も多い。

30代男性（5件）

- 家庭を優先すること。
- 業務時間と非業務時間の切り替えを明確にしている。
- やみくもに定時上りを推奨するだけでなく、残業時間と賃金のバランスを取ることも必要ではないか。
- ワーク・ライフ・バランスの土台となる健康維持のため、睡眠時間の確保を最優先している。
- 仕事を家に持ち込まず、必要以上に自分を追い込まないように第三者目線で自分の状況を分析する。ミスや失敗をしてしまった場合は「まあ、いいか」と自分に言い聞かせるように口にするので、自分を責めない。生活のために仕事をこなすと思うと重いので、仕事はあくまでライフツールの一つと考えて、自分の時間を大切にする。

40代女性（17件）

- 今はコロナで仕事も生活も調和なんて取れないと思います。また市民1人につき10万円を希望します。
- 互いの仕事の内容を理解し協力をしないといけないと思う。
- 仕事の残業を減らして自分の生活の時間を充実させる。
- サービス残業はしない。有給休暇を取る。
- 少し先の将来に夢を据え、そのために働くことを意識しています。
- 第一は自分の努力。以降周りにどれだけ自分のことを理解してもらえるか。
- 無理しない。適度に手抜きする。
- どんな職種（テレワーク、リモートができない仕事）でも、個人が尊重されて働きやすい職場が増えると、生産性も上がり良い循環になると思います。
- 家族の理解、協力を得るためにもどんなに忙しくても家族とのコミュニケーションを大事にする。
- 生活：家族ができることをできる人がやる。仕事：まだ仕事優先の考えが自分の中にあります（管理職のため）。

- プライベートタイムでも仕事のことを考えてしまいがちなので、意識して切り替えたり、気分転換するようにしています。
- 独身の頃から子育てをしている今でもずっとフルタイムで働いています。家事分担が女性の方がどうしても多いので、そこがとにかく大変です。工作中より家に帰ってからのの方が大変だったりします。学校の PTA 活動も女性の方がメインなので、男性がもっと子育てにも学校へも積極的に活動してくれたらいいのになと思います。
- 仕事をしていないので特にありません。
- 家庭内での家事の分担。
- 男の人の長時間労働や休日出勤を減らし、家庭のことに協力してくれると良いと思う。
- 定時で帰れるように仕事に計画性を持って進める。
- 子育てが一段落した後の第二の人生での社会とのつながりとして若者と協力し合って、社会に貢献できる選択肢が増えたらいいなと思います。

40 代男性 (7 件)

- 可能な限り休暇を取得する。
- 概念が抽象的すぎてイメージが湧かないです。
- 無用な残業をしないこと。週休 3 日制とか 16 時退社制があればいいと思う。
- 家族、友人との対話。人と顔を見て話す会話が重要。
- 仕事をしなければ生活できないので基本的には仕事中心に生活バランスを整えています。子どもが風呂、就寝までのギリギリまで仕事をするようにし、家ではできるだけ仕事を考えないようにしている。
- スポーツをすること。
- 残業を美德とする雰囲気改善や精神疾患予防になるボランティア活動などの参画呼び掛け。

50 代女性 (15 件)

- 自分は仕事を愛しているので、仕事に取り組んでいると充実感を覚える。有り難いことではあるが、一方家族はやはりプライベートをもっと充実させたい思いがあるようで、定期的に外出したり一緒に何かしたりという時間を持つよう心掛けている。
- 性別にとらわれない家庭内での役割分担。
- 自分の個性を生かした仕事をして楽しく暮らせたらいと思う。
- 自分の時間を大切に、家庭を守るのが一番です。
- 一人になる時間を作ったり、仕事が休みの日や家事が済んで時間が空いたときは自分の好きなことをしてストレスを溜めないように心掛けています。主婦の仕事だけをやっていて学校生活の大変さや夫の仕事に対する理解や大変さが分からなかったが、自分もパートに出ることによって、子どもや夫の話に入っていけるし、悩みも共有し聞いてあげられるようになり、ワークとライフのバランスが取れたと思います。
- 女の解放に不可欠なのは女の努力ではなく社会の変化なので、個々人の実践によってワーク・ライフ・バランスが実現できると思っている人がいるならば、そうではないということ啓発することが必要であると思う。
- 今まで深く考えたことはなく、しかし今より仕事の割合（家で考える時間も）を減らすと良いのかなと。
- 定期的に趣味やスポーツを楽しみ、仕事（主婦業と介護）と生活の質のバランスを保つようにしている。
- 趣味を持つ。仕事を家に持ち込まない。

- 会話。
- 収入は必要最低限にして、仕事を増やしすぎないように働くようにしています。仕事を増やすと、食べることや家族のこと、自分の時間を持つこと等の生活の中で大事にしたいことがままなくなるので。(それは夫の収入があるからこそできることだと思いますが)
- 休日は、仕事を忘れて趣味を楽しんでストレスを解消します。
- 何事も理解するようにしようと思っています。私より上の年代は下の年代に負担になり、やってもらって当たり前という方が多いようです。上も下も互いに理解して、違いがあることも話せることが一番だと思います。
- 仕事や子育てをしている中で自分の自由時間を作ることを心掛けて生活をしていけたらよいと思う。
- 女が家事、育児が当たり前と思っている男性が多く(仕事を持っていても)男女共同参画社会をもっと実現しないとワーク・ライフ・バランスは難しいと思う。

50代男性(7件)

- 私は孫を持つ年齢でもあり、自分の子ども(女性)にも常に話していました。「結婚しても仕事に就きたければ旦那と相談して行くと良い」「家庭のバランスを考えながらも、やりたい事があれば行動しなさい」と。
- サービス残業をしない。週休3日制。
- 話し相手を作ること。
- 1年に1度1週間以上の休暇をとる。
- 二世帯で生活している中で、自分のできる範囲で家事を行っている。家族全員が協力し合って生活していければ仕事と生活の調和が取れると思います。
- とても大事な事なので市町村や国家レベルで計画を打ち出したりしても、個人個人の意識で成功に関しては流動的だと思います。古い考えの世代がまだまだ多いのとともに自分の考えに固執したり、他人を考えない人たちがいるので、コロナの対策が効果を上げられないのと同様に非常に難しいとは思っています。
- 仕事(ワーク)以外の充実があってこそ仕事が充実するのだと思います。

60代以上女性(9件)

- 我が家は高齢者(65歳以上)2人の生活になってから、車の運転、買い物、家事等2人で協力し合って何事もやるように心掛けて生活しています。性別による役割が無いように話し合っています。石狩市の男女共同参画計画も第4次になったと書かれていましたが、男女共同参画の名称についても、現状に合った男女のくくりを外した名称を工夫したらよいと思います。また、石狩市でも札幌市に続いてパートナーシップ制度の早期導入を提案します。
- 勤務している職場によっても環境によってもバランスの難しさはあると思います。自分自身ではどうしようもないこともある。自分では子どもも学生のため、早めに仕事場に行って自分の仕事を済ませ、帰りは17時に帰りたいと思っている。現在そうしていますが難しいときもある。家庭の事、子育てについて女性がという考えが今も多くの男性が思っているのでは。
- 家の周りにつろげる公園や運動(パークゴルフなど)。一人で行っても安心できる環境があるとうれしいです。こちらは彩林公園があって最高です。
- 相手の気持ちになって考える(明日は我が身と思って考える)。話をしても理解しない人は逃避も必要だと思う。
- 「私は仕事をして帰宅して疲れているんだ」「私は家事が多すぎて疲れているんだ」を理由に天狗になったりイラついたりしない。

- 職場（パート）では、女性はまだ働いていても家事をするのが当たり前のように思っています。日本はまだ男女平等ではないのが多いと思う。私はお互いできることを少しでも心掛けている。
- 仕事と生活の調和。興味がありますが年齢なり事情により家庭内での生活もそれなりに調和が大切だと思います。
- 家族とよく話し合うこと。
- 協調性、ストレスを溜めない。集中できることを探す。

60代以上男性（12件）

- 残業削減。
 - 女性がどんどん社会に進出して大きな貢献度が期待できる時代になっています。女性は家を守るという考え方はナンセンスであり、女性の知的な考え方を社会に反映させてほしい。
 - 体に気をつけ（健康）、毎日に感謝をして過ごしていきたい（これからも）。
 - 健康に留意すること。できるだけストレスを溜めないこと。
 - 人間（夫婦間）それぞれ価値観が違うもので、それをリスペクトしながら多様性を認め合う社会の構築が必要と考える。
 - 休日の確保。有給休暇の消化。
 - 妻のサポートはいつでもします。
 - 自然体。
 - 生活習慣をバランスの良い方向に心掛ける。早寝、早起き、運動、社会活動（年金生活のため）。
 - 私の時代はなかったことですが、今の若い人は核家族が多いので子育て期に育休は賛成です。
 - 男女性別役割分担意識にとらわれず、お互いを尊重し合う家庭と地域社会。
 - 仕事の量と生活（家族）との調和のバランスを考えた。
-

問 6 : あなたが日ごろ感じている男女平等や男女共同参画についてのお考えやご意見がありましたらご自由にお書きください

20 代女性 (5 件)

- 女性も社会で活躍でき、少しずつ男女平等な社会になってきていると感じますが、やはり女性には出産や子育て等の理由から、どうしてもパートナーがいないと収入面でも難しいことが考えられます。収入のない中でもしも家庭内暴力が起きても生活していくには、相手を頼らざるを得ない状況の方もたくさんいると思います。表には見えない問題をどう解決すべきかが今後の課題であると考えています。
- 子育てというライフステージで、男女が平等に子育てに関われる社会づくりが、全体的な男女平等につながると思う。石狩のまちが好きなので、もっと子育て支援を充実させて、それをアピールしてもらえるとうれしい。
- 私の仕事は土木現場で作業員の管理をしていますが、女性技術者が少ない中で「いいよ俺がやるから」と優しい言葉ですが、必要でないとされている気がするときもあります。女だから現場ではないなどよくあります。性格上気にする方ではないので問題はないですが。
- 女性の産休や育休の制度を整えるだけではなく、男性も育休を取ることができるような風潮が生まれれば良いと思う。
- 女性の人による男女平等の実現や男女共同参画はおおむね積極的であると感じる。私も女性であり、男女平等の実現を考えるためそれはとても心強いことだと思う。接してきた経験から男性は様々な意見を持つ方が多いと感じる。年代などもあまり関係していないように感じる。そのため、生活でのいろいろな場で思わぬところで温かみを感じることもあれば、傷つくこともある。しかし、それは男性も感じていることであると思う。男性と女性には身体的な違いなどの決定的な違いはある。しかし、その性別の壁を超えた、あるいは今よりも低くした社会の実現が叶えばと考える。

20 代男性 (5 件)

- 男女共同参画社会という言葉があまり世間に認識されていないような気がします。特に自分も含めて若者にもっと理解されるように、テレビや各 SNS での CM や広告などで発信していくのが良いかと思います。
- 男性が女性をカバーするのは当然だと思う。
- 男女平等や、同性愛を認める法律が作られない限り団塊の世代の差別は良くならない。
- 女子だからという考えを捨てて過ごす。
- 女性がこの今の社会で困っていることをまず聞いてみたいなと思いました。あまり平等になっていないという意識が最近はなく、改善されてきているのかなと思い聞いてみたいなと思いました。力でいうと、圧倒的に男性が強くそれは平等ではないのかもしれませんが、しかしその男性の力は女子を守るべきものであって自分の強さを象徴するものではないかなと思いました。そういうスポーツは全然いいと思いますし、ひたむきに取り組んでいるのでかっこいいなと思います。ですが喧嘩が強いとか弱いとかで自分を象徴するそういった行為ははっきり言って恥ずかしいと思います。話が逸れましたが、力の平等さは不可能に近いとして

も、最近でいうと女性の方が優遇されている状況もあったりするのではないかなと思います。今これとって思いつくことは意識していなかったのではないですが、突然その場にいた時に「あ、これ優遇されてるな」と思うことが多々あります。そういった面では最近では女性が過ごしやすい社会になってきているのではないかなと思いました。

30代女性（12件）

- 一般的に性別を書かせること自体どうなのかなと思いました。このアンケートは「答えられる範囲で」とあったので、少し良いと思いました。
- 共働き家庭が多くなり、表面上男女平等の考えが広まってきているとは思いますが、まだまだ「家事、育児は女性が主体的にするもの」「男性はあくまで手伝い」という考えが根深いように感じます。また、元々男性社会である制度の中に単純に女性が組み込まれることを「男女平等の雇用」と言うのも、結局「女性の男性化」を求められているだけの様な気がします（要職に就くために妊娠、出産を断念させられたりするなど）。
- 昔ながらの、男は仕事、女は家事・育児という考えが、国全体で凝り固まっているので、今時点では昔とあまり変わらない気がします。少しの変化はあるものの、結局は「女だから」と言われる部分が多いので嫌な気持ちになることが多々あります。仕事でも家庭でも。同じように仕事をしていても、家に帰れば家のことは女がするものという形で、女ばかりが負担になっている場面も多いです。
- いまだに「自分の方が偉い、上だ」と思っている男性が少なくない。子どもが熱を出して休むのは必ず母親という考えも古いのにそれが当たり前のも平等じゃないなと思う。
- 体のつくりや体力的なことの違いはあるので、何でもかんでも男女平等と言うのは難しいと思う部分もある。しかし、固定的な考えはせずに、男女平等ではなく得意不得意で分担できるようになっていけばよいと思う。「男女平等」だからと明らかに体格差があるのに一緒にスポーツで戦わせるのは無理があるなと学校等で思う場面があるので、平等とは言わず共同参画でよいと感じる。
- 男女平等と世間では言っているが、家庭内ではまだまだ浸透してないと思う（会社では差別なく、むしろ女性に優しいと思う）。洗濯はしてくれるが「洗濯しといてやったよ」自分の家なのに清掃ただけで「なんで俺がやらないといけないの？」とお前の仕事だろと言わんばかり。仕事でくたくたになって帰ったら言われる現状です。我が家だけですか。召使い、家政婦と思った時点で平等ではないですよ。結婚て何。問5の「IV いやがっているのに性的な行為を強要する」について愛の行為を暴力というのか。「V 何を言っても長期間無視し続ける」について暴力なのか。「VI 交友関係や電話を細かく監視する」は束縛であって、暴力なのか。
- 全ての面において「男女が平等に」とはならないこともあると思う。性差を理解した上で、お互いを助け合うという考えを多くの人々が持てるようになるとうい考える。
- 固定概念が無くならない限り平等とはならない。そのため、女は我慢し頑張るしかないと思う。
- 夫婦ともにフルタイム勤務の家庭が増えても、家事の量が夫婦平等にはならない、子どもの優先緊急連絡先は母親など、女性の負担が増えていると思う。意識改革は難しいので、まずは男性の育休義務化、スーパーのパパ割など、男性が家事をする機会を推進する取組が必要

だと考える。

- 今の各職場の管理職とか、例えば他には官僚とか、そういう年代の人たちがいつまでも上に立つ状況がある限り、結局決まり事がいろいろ変わっても、状況は変わりづらく思います。
- 男性、特に 40 代以上の無礼な言動が多いと思われる。それを注意するとバカにしたり、同じ女性同士でも否定的な態度をとる風潮がまだまだ存在しています。教育現場に性教育や人権についての授業が必須だと思います。子どもたちに今の大人の作った社会に慣れるのではなく、疑問を持ち考えるようになってほしいと思います。
- 心構えが育って、子育てを一緒にする意識と具体化ができてとても良かった。女性は産んですぐ母親へ変わっていくことが多いが、男性はそのようなきっかけがあつて変わっていつくるとわかった。一緒に変わってくれないことにイライラしたが、男性の立場になってみると、なるほどと理解できた。お互いにとって有意義なこととなった。

30 代男性 (7 件)

- 何でもかんでも平等にするのは限度があると感じる。差別は良くないが、役割分担は明確にしてもいいと思う。
- そもそも男性女性で区別するべき点（体調不良や妊娠といった生物学的に発生する身体的違いによる必要不可欠な配慮）を除いて、男性女性という区別で個人間の差を分けようとする事自体が間違っていると考えています。ありとあらゆる個人の差を、特定の記号で区分するから歪みが生じるものであるという考えを、それぞれの個人が意識することが大事だと思います。
- 女性が常に被害者のように訴えるシーンが多く目につく気がします。実際そういうケースは多いのだと思いますが、男女平等を真に訴えるのであれば、男性が苦しい思いをしている部分も女性に肩代わりしてもらえるのか、それは可能なかと思うことがあります。個人的には互いに平等（＝全て同じ条件）よりも、互いの得手不得手を生かせる社会がお互いに住みよい社会になるのではないかと思います。
- 組織内で男女平等を掲げていながら、全くできていない団塊の世代に疑問を感じる。セクハラやモラハラなど令和を迎え何が男女を平等と捉えるか、最新の情報を学習すべきだと思う。それができないからこれからの経済を支える世代の人たちが道を見出せていない一要因だと感じる。団塊の世代にそれができないのであれば退くべき。それは窓際社員や御局様と呼ばれる人たちに共通する課題だと思う。何かある度に「昔はもっと・・・」「男ならもっと・・・」「女なら少しは・・・」そんな言葉が出る知能レベルはただの老害。不要。
- 差別と区別は違うものだと思います。一言で平等とは難しいと思う。介護の現場で働いていたことですが、男性だけが力仕事をしていたりしていました。男女平等を願いますが、その判断は慎重にするべきです。
- このアンケートはとても難しい聞き方と回答だと思います。具体的な内容ではないので誘導されているように感じます。ダイビングや生き死にかかった状態で、パニックを誰かが起こした場合、対応として平手打ちすることも中にはありますし、事柄を具体的にしてくれないと正確に答えられません。男女平等とは具体的に何をですか？
- せっかく LGBT に関する設問もあることですし、そろそろ同性パートナーシップ制度の制定を検討していただきたいです。

40代女性（12件）

- 私は夫が仕事をしてくれているので、約10年家事・育児を思う存分やらせてもらいました。昭和の人間なので、「男は仕事、女は家」でいいと思っています。ただ、夫の仕事がコロナでなくなり収入がないと育児が思う存分できません。子どものいる家庭に急いで支援をお願いします。
- 生活面について、1つの家事を私に確認せず、夫が1人で通してこなせる場面はあまりない。それだけ男性の生活に対する参画意識はまだまだ低いと思います。その環境の中で女性が元気に働きに出ることは負担がかかるのでは。まずは男性の意識改革が必要だと考えます。
- 昔よりは男女平等に近づいてきたかもしれないけれど、まだまだ程遠いと思う。男は仕事、少しだけ育児。女は家事・育児+仕事になっただけ。男性の育児への参加は、中々難しいと勤め先を見て思う。上司の年代がまだ昔の考えだから。
- 若い世代20~30代は対応できますが、50代以降の世代の頭の中が変わらなければ進んでいかない。企業やグループのトップから促されるべき大切な問題。
- 男、女と文字で表されているうちは自分でもまだ平等ではないと思っています。なので、性別の表記がなくなったら少しずつ平等が広まっていくのかなと感じています。
- 男女平等という言葉はよく聞くようになりましたが、本当の平等には程遠いと思います。セクハラはまだまだあるし、家事育児はやはり女性がやって当たり前、女性は男性を立てるもの、だなんていう風潮もあります。しかし男性の役割、女性の役割と分けてしまうのは、男性だけでなく、女性の中にもあると思います。そういうところをフラットにする意識づけが必要だと思います。しかし、全てのことを平等にというのも違って、男性に向いていること、女性に向いていることというのはどうしてもあると思います。ですので、基本的には、男女関係なく、相手の尊厳を保つ姿勢を忘れないこと、それぞれが役割などを分けずにできること、できそうなことに積極的に取り組むということが大切だと思います。
- そもそも結婚して男性の名字になる時点で男女平等ではないと思っています。そして妊娠し出産するのは女性ですし、育休とかも男性だけでは無理な場合（母乳など）もあると思います。共働きでどちらもフルタイムでも世帯主にしか手当がつかないのも事実です。母子家庭にある手当が父子家庭にはなかったりもすると思うし、夫が亡くなれば遺族年金はあるけど、私が死んでも遺族年金は出ないので、男性側が大変な面もあると思います。でも男はこうであるべき、女はこうであるべきという考え方を変えていくのは年を取ればなお難しいと思います。40代の私もLGBTなどという言葉を知り、いろいろなセクシャリティがあることを知りました。他人を好きになることがないという人たちがいることを最近知りました。
- 男女平等はなかなか難しいと思います。仕事をしていても女性の方が給料が少なかったり家事の負担も多くなります。理解ある人もいればそうでない人もいます。
- 女性も仕事をする時代なのに家事、育児はまだまだ女性の負担が大きいと思う。でも女性は男性に逆らえないところがある。
- 我が家は男は仕事、女は家事、育児と考える夫のため、パートをしていても家事全般、習い事の送迎は全て妻のやるべきことだと思っているので、もっともっと男女平等に近づけるようになるといいなと思う。給料が発生しない家政婦のようでつらい。

- 9月まで在籍した職場では、圧倒的な男性社会で男性優位に様々な物事が進んでいました。そういうことがなければもう少し長く働けたのと思います。
- 子育てがいかに大変か男性は知るべきだと思う。どんなに仕事が大変でも育児をしている男性はいるだろうけどそれは一握り。男性も育児に参加という考えはおかしい。2人の子だからやるのは当たり前。

40代男性（8件）

- 実質男女平等というものは無理がある。男ならできるが女ならできない、またその逆もある。それで平等と言えるのか。
- お互い協力して仕事をする。
- 「男女平等」はもちろん機会という意味では、男性だから女性だからこれはダメという風に断定しないのは当たり前のことだと思いますが、男女関係なく1人1人できることは違うし「個人平等」という考えの方がこれからの時代には必要となってくると思います。
- 身体づくりや感性も違うので完全に平等にはならないと思う。
- 女性の権利の主張が多いと思う。男性側の意見や主張とのバランスが取りにくい社会だと思う。（男性が男性側の主張をすると逆に攻撃される。）
- 互いに協力し合うことが大切。自分の主張が常に正しいことはないし、問題点は何か、解決するには何がベストかよく話し合うことが理想。
- 「ジェンダー」とよく言われますが、「男女平等」とか「女性に管理職を」と言っている時点で既に男女差別です。会社は1人に振り回されるようではいけない。今はまだ女性が子ども優先に仕事を調節することが受け入れられない中、会社が女性を考えるのではなく、女性が家庭に仕事をするの理解、協力を得て、会社内では男性同様残業、出張を当たり前に行うことで信用を得ていくのが第一だと思います。
- ニュースでよく目にするが、日本の男女共同参画は官でも民でも世界に比べて遅れていると思います。

50代女性（18件）

- この件について、真剣に取り組む個人や団体とそうでない人々との温度差をいつまでも感じさせられる。この1~2年で表面化した日本の高齢政治家たちの固定観念は、彼らが引退しない限り変わることがないと思っている。日本における女性の議員の割合や経営者の少なさ、給与の低さ、地位の低さ。「先進国」の中で最低のみならずそうでない国を交えても相当後ろにいることに今更愕然とさせられる。日本という国、もう少しましであってほしい。何かを変えるのは大変労力を伴う。
- 社会全体で考えるというより、まず家庭内の意識を変える必要がある。特に男性の意識を変えることが重要だと考える。「女性のための〇〇講座」というのがあるが、男女揃って（パートナー同士、夫婦等）考える場があるといい。
- 今までの時代はどちらかと言えば男性を優先する時代だったと思うが、これからは女性のやわらかな感性、柔軟性が時代をリードしていくと思う。
- お互いのことを思って生活しているので、ありません。
- 男女平等や男女共同参画といっても、男性の能力と女性の能力や役目みたいなものは差別に

関係なくあると思っています。かといって個人の能力によって女性でも男性的なことが得意な人もいますので共同参画も認めています。

- 時給が 1,500 円になって、女が稼げるようになること。役職付の女性が増えること。議員の男女比が反対になること。
- 男女平等とはいえ、体格的に無理なことは多い。政治についてはもっと女性が増えてほしいと思います。
- 男女共同参画社会の説明が同封されていて読んだけど、いまいち「男女共同参画」という言葉にピンときません。アンケートには協力しますが、気持ちとしてティッシュ 1 個くらい同封してもいいのでは。
- 歴史的に見て、男女共同参画の必要性について、必要性を感じているのは我々世代以降の人たちだと思います。もっとこのことが社会に浸透し、理解が深まるようにしないと苦勞するのは男性と同じように仕事をしている女性だと思うので、行政やマスコミはこのことの理解を深めるよう世論に働きかけてほしいと思います。
- 「男女共同参画」というような「男女」とあえて使うことが「？」と思うことがあります。では LGBT の方は。「皆共同参画」的な言葉が良いかと。
- 適材適所。
- 自分がされて嫌なことはしないと頑張っています。
- 女性が働きやすい環境にすることも必要だと思いますが、男性の過重労働も改善されてほしいと思います。男性が仕事にエネルギーを取られすぎて家庭や育児に関わる余裕がないため、男性は仕事、女性は家事という構図がなかなか変わらないという面もあると思います。
- 男女平等という言葉がありますがまだまだ平等になっていないと思います。給料も女より男の人のほうが稼げるし女は子どもができたら不利なので、辞めなくてはならなくなる。家事と子育てと仕事の両立は難しい。
- いじめや DV 被害者がしっかりと守られることで、被害者も声を上げやすくなると思う。いじめや暴力のない社会を強く望みます。
- 人によってと考えています。今まで何も知らなかった方に、今からこうなりますと言っても、急には固定されてきたものは変わらない。子どもの時から知っていて成長すれば一般に当たり前となっていくと思います。
- 日常的にあまり男女共同参画という言葉は聞いたことがないのですが、仕事、家事など男女平等でバランスよく生活していければよいと思います。
- DV とは、身体的暴力としか理解していない男の人が多いと思う。大声で怒鳴る、人格を否定するような言葉も DV だともっと周知してほしい。

50 代男性 (5 件)

- 私も問 5 の項目を行ったこともありましたが、現在は改善されたと考えています。心構えとして、相手の意見、考えに寄り添う気持ちが必要で、傾聴の意識を持ってから、様々な問題が解決に向かうものと実感しています。
- PTA 以外は女性の人数割合は著しく少ない。
- 女性からの暴言は男性にとっても暴力に当たると思う。
- 市民が気軽に相談できるように役所はもっと積極的に窓口を広めるようにしないと男女共

同参画と言っても、市民は理解できていません。悩みを持って生活されている方はたくさんいると思います。福祉に関してもどこに相談したらいいのか分からない方は身近にもたくさんいます。もっと市民の声を聞いてほしいと思います。

- 得意分野が性によって違うのに、そこを差別だとするのはおかしいですが、平等に与えられたり、受けたりする分野は不公平というのはおかしいと思います。

60代以上女性（14件）

- 石狩市が男女、ひとり親家庭、経済的に苦しい家庭、障がいの有無など、老若男女が安心して暮らしていける市であるよう、様々な施策を実施してほしいと願っています。
- 育ってきた環境の影響もあると思います（全ての人ではない）。年齢の低い頃からの「知る」という教育が大事なのかも。
- 生まれた年代での違いを感じる人が多い。
- 考えていきたいと思います。
- コロナ禍になってから随分暴力的になっているのを聞いている。男女共に協力し合えると良いと思います。
- 私は80歳。今まで女のくせにというのを多く聞いた気がします。
- 男の特性、女の特性を生かした社会作りが平等と思う。LGBTはそれぞれ異なる特性なので、一般多数と同じ対応をすることは難しい。個別に対応する。オリンピックに一般人と同枠にするのは反対です。不公平・不平等と思う（自称の性別は犯罪につながる）。
- 老々介護が増えてきています。言葉のキャッチボールで態度が変わると聞いたことがあります。参考例等を教えていただきたい。
- 同じ人間なのに力で差別するのはおかしい。女性参加とあり、女性を前面に出す役職はおかしい。男女問わずその場の能力がある人を採用すべき。
- 女性の管理職が少ない。女性の正職が少ない。家庭を持って働き続けられるような環境や教育、研修、収入がアップすれば税収も増えると思う。
- 近年いろいろな場で女性の活躍が目立ちますがとても勇気づけられています。
- 男女平等と一言と言っても、男、女に限らず、それぞれの考え方の基準が違うので、どう歩み寄っていけるのかが難しいと思います。
- いかなることでも対等。
- 男女平等？本当にそんなのがあったらいいですけど。そんな世の中になってほしい。祈ります。

60代以上男性（14件）

- あらゆる多様性を認め、全ての人の人権を考えなければならない。これを普通に意識するには、小さな子どもの頃からの教育が必要。特に家庭の中で家族間で養われると同時に学校での教育の大切さ。男の子と女の子の平等な生活、いろいろな個性のすばらしさを感じる。
- ネットでの嫌がらせ、批判等取り締まりを考慮した方が良くと思う。
- 尻に敷かれる、「何を言った！」と言われる→家庭内パワハラ
- 私は独りになって15年位になりますが、夫婦が健全であれば、生きている限りでは理想的だと私は思います。夫婦が健康で一生を過ごすことができるのであれば、どんどんお互いに

健康を維持すべき。社会貢献と理解が大切です。

- 女性が産後に安定した職場に就くことができない。
- 問5の全項目が身体的、心理的、人権否定の虐待イコール暴力だと思います。他者を尊重する社会が望ましいです。
- 日本は古来から「男性社会」で女性を「物扱い」する風潮があり、女性の権利主張を認めずに今日に至っている。こういう社会を是正するには男性が女性をリスペクトすることで共同参画が可能の一步となるのではないか。
- 同一業務同一賃金の実現。女性の賃金が低いと思う。
- 個人の尊重と男女平等の社会を。
- 今の社会は男も女も同等である。
- 男女平等とは、どう理解して良いのかよくわからない。
- 日本の社会はまだまだ男性優位の社会であり、政治、会社全ての面で女性の参加が必要。女性自身で自立していく勉強法も必要。家事などは共同で行う努力が必要であると思う。
- 男の人も女の人も才能のある人がたくさんいます。それぞれが自分の好きな仕事をしてお互い助け合って生活していくといいと思います。
- 日本もようやく男女平等に関して相当理解されるようになってきました。かなり米国に近づいてきたように思われる。